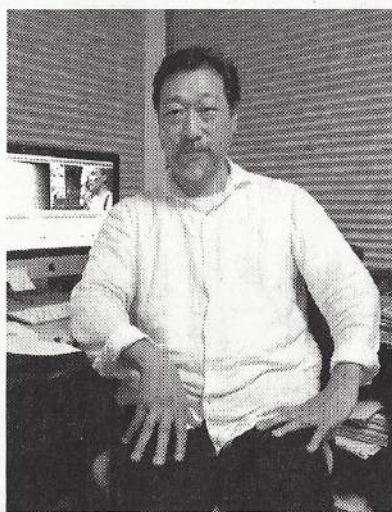


映画「袴田巖」が11月完成

「SAYAMAみえない手錠をはずすまで」

金聖雄監督の次回作

映画「SAYAMAみえない手錠をはずすまで」を発表した金聖雄監督(51)が静岡地裁の再審開始決定で釈放された元ボクサー袴田巖さん(78)＝浜松市中区＝の日常を追ったドキュメンタリー映画「袴田巖」の200時間を越える撮影が8月一杯で山場を超え、編集作業に入っている。10月には音楽録音、11月には映画が完成し、12月には試写会を予定している。(広川一六)



映画「袴田巖」を製作中の金聖雄監督



映画「袴田巖」の1シーン。姉の秀子さん(左)と巖さん

金監督は1963年5ぶりに釈放された。しかし、月、狭山市で女子高生(当時16歳)が殺害された狭山事件で無期懲役で服役後、仮釈放され、第3次再審請求で無実を訴え続ける石川一雄さん(76)夫妻の日常生活を3年間、撮り続け、2014年毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞を受賞した。

次回作の映画「袴田巖」の「袴田事件」は袴田さんが1966年に旧清水市(静岡県清水区)の一家4人が殺された事件で、強盗殺人罪などで死刑が確定したが、昨年3月、静岡地裁が再審開始を決定し、48年

金監督は「昨年3月27日、石川さん夫妻と東京高裁前で無実を訴え続ける石川一雄さん(76)夫妻の日常生活を3年間、撮り続け、2014年毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞を受賞した。」と会ったのがきっかけで2人を撮りたいと思い、『映画袴田巖プロジェクト』が動き始めた」という。

後楽園で名誉チャンピオンベルトを巻き、ガッツポーズを見せる巖さん。家の中をひたすら歩き食べて寝る。「甘いものが食べたい」

再審、釈放後の日常描く

という普通の会話。浜松市内での買い物や散歩といった日常生活のほか、祈りのようなつぶやき、神の世界の話。長年にわたって拘束されたことによる拘禁反応で精神が不安定になっている様子などを撮影している。

「正直どんな映画になるのか、今は想像もつかない。しかし、確かなことはカメラ越しに観る袴田さんの存在そのものが強烈なメッセージを発信しているということ。そのメッセージを我々がどう受け止めるかが問われるような、そんな映画になる気がする」と金監督は語る。

袴田さんの姉秀子さんは「巖のあるがままの姿を見てほしい」と話し、石川さんも「2人は死刑囚として東京拘置所で約6年間一緒だった。映画の成功を期待したい」と支援の言葉を述べていた。

連絡先は映画「袴田巖」プロジェクト・東京都小金井市東町(☎042・316・5567)へ。